

お客様紹介

株式会社岩崎製作所 様

(ISO9001:2015認証登録)

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄
Hideo Mino

大阪市に本社を構える株式会社岩崎製作所様は、1973年の創業以来、消防器具並びに散水器具のメーカーとして、先進的な製品開発に取り組まれています。機器の使い易さ、経済性、堅牢性を考慮して、様々な製品を開発、製造されてきました。1986年に業界に先駆けて海外に進出され、その後中国に独资工場を設立、2004年には貿易会社も設立され、さらに2008年には3000坪を超える第二工場も設立、生産力を一層強化されています。

2006年にISO9001を認証取得され、今回4回目の再認証審査となりました。審査の中で岩崎社長様は、「当社が今日あるのは、お客様、協力生産工場・国内、海外の別を問わず、心の通い合う対話の成果です。人間対人間の信頼関係を築き上げる努力を重ねて来た結果です」と、述べられています。

新しい元号、令和元年を迎えましたが、岩崎社長様は、平成元年、上宮高校野球部から甲子園出場、決勝進出されました。延長10回、1点リード2死走者無し優勝まであと1人からの逆転サヨナラ負け。挟殺プレーで、野手からの送球がそれ、カバーに



中国工場設備



本社（大阪生野区）

入ったライト岩崎の前で跳ね上がり後逸、タイムリーエラーが記録されました。

受入れがたかったとのことで、当時の苦悩などのお話もお伺いしましたが、そういった経験も現在の社長業に活かされ、更なる発展に向けて取り組まれています。

上宮				東邦			
打順	守備	選手		打順	守備	選手	
1	[三]	種田仁	(3年)	1	[中]	山中竜美	(3年)
2	[二]	内藤秀之	(3年)	2	[二]	高木幸雄	(3年)
3	[中]	小野寺在二郎	(3年)	3	[捕]	原浩高	(3年)
4	[遊]	元木大介	(3年)	4	[左]	佐治靖生	(3年)
5	[左]	岡田浩一	(3年)	5	[投]	山田喜久夫	(3年)
6	[一]	鈴木英晃	(3年)	6	[一]	村田将之	(3年)
7	[投]	宮田正直	(2年)	7	[遊]	中川恵造	(3年)
8	[捕]	塩路厚	(2年)	8	[三]	村上恒仁	(2年)
9	[右]	岩崎勝己	(3年)	9	[右]	安井総一	(3年)

決勝当日の両チーム出場メンバー

【出典：Wikipedia第61回選抜高等学校野球大会決勝(2019-04-23T23:42Zの版)】

<https://www.i-w-a.co.jp/>

連載
よみもの

審査員の心理

第27回（環境編）

「取組みの計画策定（2）」

環境主任審査員 大村 敏夫
Toshio Omura

前回、「組織の状況」(4)や「環境側面」(6.1.2)及び「順守義務」(6.1.3)から「リスク及び機会」(6.1)が導かれることを説明しました。例えば、「昔は工場の周りに何も無かったが、現在は住宅に囲まれている」という状況の場合、「地域住民と共存すること」が課題となり、地域住民からは「住環境を悪くして欲しくない」というニーズがあるとします。これらの状況から導かれるのは「住民から苦情が発生する」というリスクや「地域から理解が得られる」という機会が想定されます。これらのリスク・機会への「取組み」としては、住民等とのコミュニケーションを図ることも一策となるでしょう。

「環境側面」からは、重要な環境影響の発生源が「著しい環境側面」として特定され、「順守義務」からは「著しい環境側

面」を管理することが要求されているでしょう。これらの管理が「取組み」となります。しかし、規制値内で管理していても苦情が発生したり、設備のトラブルが発生する可能性があるかもしれません。このような「リスク」への「取組み」としては、設備や管理方法の改善などが考えられます。

前回、「取組み」は「運用管理」(8.1)、「緊急事態への備え」(8.2)、「監視・測定」(9.1)及び「環境目標」(6.2)として展開されていくことを述べました。「運用管理」については、管理手順を確立して管理すること、「緊急事態への備え」としては、異常な状況を想定して用具などを備えて対応手順を確立しておくこと、「監視・測定」については、モニタリングにより状況を把握・分析して、フィードバックさせることなどが考えられます。これらの管理について現状では不十分であれば、見直しや設備の改善・更新などによりパフォーマンスを改善することが「目標」となるでしょう。このように「リスク・機会」への「取組み」が環境管理システムの根幹となることを審査にて説明しています。

